

白老町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業評価シート

No. 9

担当部署	生涯学習課		生涯学習G								
事業名	地域学講座開講事業							加速化交付金			
平成28年度事業費	595,304(595,304)					円	関連施策等				
事業概要・実績（内容）	〈No.158重複〉 2020年の「民族共生象徴空間」開設により、多くの来訪者が見込まれる中、ふるさとを学び、その良さを伝えることを目的とする。							101040201			
								102040101			
								102040201			
								103030101			
事業効果・成果	①地域散策型の郷土史探訪講座「館長とまち歩き」8回70名参加 ②講師派遣による散策及び座学「しろおいマメ知識講座」4回63名参加 ③頒布教材作成及び郷土データ収集による「しろおい再発見」2,000部発行 ④先進地域を学ぶ「知床学等施設研修」3名参加 ⑤来町者対応基礎作りのための「おもてなし講座」6回67名参加										
事業の課題等	養成した人材を「誰が」「どこで」活用するか不透明										
翌年度以降の事業の方向性	①頒布教材の作成及び郷土データ収集の継続 ②資料を基にした郷土史探訪講座の継続										
重要業績評価指標（KPI）				単位	目標値	当該年度達成率	2015 (平27)	2016 (平28)	2017 (平29)	2018 (平30)	2019 (平31)
1	「多文化共生（アイヌ文化・外国文化）に関する教育が推進されている」と考える町民の割合			%	70	38.4%	0	26.9			
2											
3											
4											
5											
加速化											
事業の評価	①重要業績評価指標（KPI）への有効性							A	11	A	
	A. 直接効果あり B. 間接効果あり C. 効果なし										
	②町が実施する必要性							B			
	A. 必要 B. どちらともいえない C. 不要										
③事業実施の有効性、成果							A				
A. 効果あり B. どちらともいえない C. 効果無											
④事業の効率性							A				
A. 適切 B. 改善の余地あり C. 非効率											
有識者意見										評価	
・来訪者に対して、郷土を知ってもらふ事業は有益である。次年度以降の継続実施を期待する。 ・参加者の感想等を、町民にフィードバックすることで、本事業への関心を高めていくべきである。 ・地元学の具体的な施策が必要である。										A	